



小山 高正 議員

市民生活について

問 ①ペットとの生活について、市営ドックランの設置を求めるが見解を伺う。②外国人の市民について、災害発生時の市内在住外国人への情報伝達の現状と改善点を伺う。

答（市民部長） ①ドックランの設置は、相応の費用負担が必要になるため、なかなか難しい状況である。今後要望が多数寄せられるような場合は、関係各課

と協議し、検討していきたい。

答（総務部長兼危機管理監） ②現在、市ホームページの多言語対応のみとなっている。防災、防犯メール等を速やかに送れるよう、カタログポケットやメールの受け手が翻訳するような機能をもったアプリの紹介等ができないか、他市の状況を参考に研究していく。

子育ての支援について

問 ①児童虐待防止について、児童の法定健康診査を未受診の家庭への全戸訪問を求めるが現状について伺う。②貧困問題について、当市の貧困の傾向と対応策、および貧困対策大綱改正への対応状況について伺う。



答（福祉部長） ①3歳児健康診査以降で身体面や養育面等で経過を見ていく必要がある幼児は、就学前まで地区担当保健師が見守りや支援を行っている。②子どもの貧困問題は、さまざまな問題が複雑化、複合化して生じており、世帯全体の問題、地域社会全体の問題と認識している。今回第3期支援計画で地域福祉計画をつくるに当たって、貧困対策計画との整合性も図りながら、計画の位置づけを検討していきたい。



古川 一美 議員

児童虐待・DV対策、自殺対策について

問 終息の見えないコロナ禍において経済問題、家庭問題、健康問題、孤立などが深刻化し、児童虐待やDV、自殺が増加傾向にあり一層対策が急がれる。そこで、①相談体制の強化②関係機関との連携③広報啓発活動の強化④古河市が目指している包括的支援体制について伺う。

答（福祉部長） ①令和4年度末までに努力義務が課せられてい

る子ども家庭総合支援拠点の設置に向けて体制を整えている。②古河市虐待・DV対策地域協議会や、公的機関の連携はもちろん、主任児童委員との情報交換や民生委員での出前講座等、地域の方との連携も重要である。③毎年実施している自殺予防キャンペーンにおいて、啓発グッズ等を配布し、広報啓発活動を引き続き進めていきたい。④相談の対象者には必ず複数で関わり、支援の方向性等、常に係で情報共有し、改めて引き継ぎを行わなくても対応ができるような体制にしている。

（再質問） 人間は神仏の子として多くの可能性を持つ存在であり、自助の精神で道を切り開き、人生を全うできるような施策を

整えることが政治の使命と考える。市民一人一人も身近な人に関心を持ち、人との絆を考え直す時でもある。人の温もりを感じ、実効性のある体制の構築を期待するが、市長の所見を伺う。

答（市長） 虐待、DVは日常では見えにくく、陰に隠れた課題である。今後はさらに実効性のある体制構築を目指し、一人でも多くの市民の命を守ることに力を注いでいきたい。

